

## 令和元年度「特色ある学校づくり対策事業」実践事例

### 佐世保市立金比良小学校



校長：高島 秀雄  
児童数：141名 学級数：8学級  
所在地：佐世保市金比良町1番5号

#### 学校教育目標

心豊かで  
確かな学力を身につけた  
心身ともにたくましい子ども

#### 1 目的

本校では、教育目標の具現化に向け、以下のことを中心として特色ある学校づくりに取り組み、「知」「徳」「体」のバランスのとれた子どもの育成をめざす。

- (1) 確かな学力の定着
- (2) 心を育む体験活動の充実
- (3) 小中一貫型教育の推進
- (4) 外部人材・施設の積極的活用
- (5) 英語教育の推進（コミュニケーション能力の育成）

#### 2 実践内容

##### (1) 確かな学力の定着

###### ① 課題にこだわった指導

全国・県・市の学力テストの結果を分析し、各学年における課題を明確にした。授業では、課題を意識した指導を国語、算数だけでなく他の教科においても実践した。1月に実施した学力テストを検証の一つと捉え、授業や家庭学習で課題にこだわった指導を繰り返し進めてきた。

###### ② 少人数指導

3～6学年で算数の時間を中心に習熟度別学習や少人数指導、TT指導を実施し、基礎や発展のドリルワークを活用しながら個に応じたきめ細かな指導を行った。

###### ③ 学力テストの実施

1月には全学年で国語と算数の学力テストを実施した。その結果を詳細に分析して今までの指導の成果と課題を明確にし、今年度中に課題の重点補充をするともに次年度の指導に生かすようにする。

##### (2) 心を育む体験活動

###### ① 花いっぱいの学校づくり

自分たちの学校を自分たちの手で花いっぱいのきれいな学校にしようと学級園や学校園に、パンジーやデージー、ノースポール、ヒマワリ、マリーゴールド、チューリップなどの花を年間を通して計画的に育ててきた。1年生は一人一鉢で

5月～9月にアサガオの栽培を、11月からは新しい1年生のためにチューリップの球根や春に咲く花の苗を植えて世話をした。

## ② 野菜の栽培活動

### 【1・2・3年生】

5月～8月にミニトマト、ピーマン、ナスなどの夏野菜を栽培した。また、6月～11月にはサツマイモ、10月には白菜、大根を栽培するなど、年間を通し計画的に栽培活動に取り組んだ。子どもたちは、次から次に熟していくたくさんのミニトマトを笑顔いっぱい収穫していた。さつまいもの収穫では、たくさんできたさつまいもを泥だらけになって掘りながら収穫の喜びを味わっていた。



いもほり

## ③ 観察池や飼育小屋での動物とのふれあい体験

生活科を中心にウサギやカメ、ニワトリ、金魚とのふれあい体験や観察を行った。11月には獣医師を招いての飼育委員会児童を対象に飼育に関する講話を行うことができた。また、観察池の整備を行ったことで池の中の生き物にも興味をもち、生命の尊さを改めて実感することができた。



飼育小屋での観察

## (3) 小中一貫型教育の推進

金比良小学校と光海中学校が「小中一貫型小・中学校」として、充実した教育活動ができるように小中の職員と児童生徒が一体となる取組を進め、小中一貫の更なる推進を図った。

### ① 小中合同職員研修会の開催

夏季休業中を中心に年間を通して小中合同の研修会を開催し、小中9年間を見通した各教科のカリキュラム作成や見直し、乗り入れ授業の充実、学校行事・授業連携・校内研修・生活指導等の教育活動や学校組織の在り方についてなど、きめ細かに情報交換を行ってきた。

### ② 中学校教師による乗り入れ授業、中学校での体験授業の実施

6年生は生活の基盤を中学校とし、音楽を専科として中学校の教師が入り、算数や英語を中学校の教師とT.Tを行っている。また、5年生も中学校での体験授業を経験し、次年度からの中学校校舎での生活に慣れるための動きを経験している。

### ③ 合同行事の開催

合同体育大会、合同避難訓練、合同縦割り遊びなど9学年がともに活動をする行事を計画し、中学生を中心とした縦のつながりを意識した実践ができた。



小中合同歓迎遠足



小中合同避難訓練

#### (4) 外部人材・施設の積極的活用

##### ① 図書ボランティアによる読み語り・環境整備

6.29の平和集会では、戦争の怖さや平和の尊さを図書ボランティアの方々の読み語りを通して思いを深めることができた。また、図書室にも平和コーナーを設置し、8.9の平和集会までの期間を平和学習月間として各学級で平和についての学習を充実させていった。また、読み語りだけでなく図書室の環境整備や本の修理、新刊図書の紹介、本の貸し出しなども積極的にしていただき、楽しく、温かい雰囲気

の図書室づくりに貢献していただいている。

##### ② 茶道クラブ

クラブ活動の中に茶道クラブを設け、子どもたちが伝統文化に触れる機会としている。

クラブの時間は毎回、地域在住の茶道の先生に教えていただいている。場所も西地区公民館の和室を利用した。茶道の心、礼儀作法等を学び、豊かな情操を育むことができた。また、日本文化のすばらしさを体験し、日本文化に対する興味関心を高めることができた。



茶道クラブ

##### ③ 赤ちゃんとのふれあい体験

幼児教育センターの協力のもと、乳幼児とそのお母さん総勢14組をお招きし、5年生とのふれあい体験を行った。事前に担任と養護教諭がT.Tで赤ちゃんの成長や世話の仕方を学んだ後の実践の場ということで、5年生児童は積極的に赤ちゃんやお母さんに関わり、いのちの大切さ・尊さ・不思議さ、相手を思いやる気持ち、自分の家族との関係を考えるきっかけ、親の思いを知る、将来の子育ての予備的体験をするなどとてもよい機会となった。



赤ちゃんとのふれあい体験

#### (5) 英語教育の推進（コミュニケーション能力の育成）

教育課程特例校の指定を受け、全学年に英語科を設定し、英語を通じてコミュニケーション能力の素地を養う学習に取り組んできた。相手意識を持って、進んで英語を使い、自分の気持ちや考えを表現し、相手の気持ちや考えを理解しながら、いきいきとコミュニケーションをとる子どもの育成を目指した。

##### ① 英語の授業研究（全学年）

子どもたちが楽しく英語にふれ、興味関心を高め、いきいきと学ぶことができるようにカリキュラム作成や小中連携による授業研究、教材開発や交流活動等を進めた。授業では、歌やチャンツ、ゲームを取り入れ子どもたちが楽しく学べる工夫をした。

また、評価の研究にも力を入れ、中学校の英語教師と協力しながらパフォーマンステストを行ったり、外部テストを取り入れ、5観点の客観的評価を行ったりした。

##### ② イングリッシュタイム・英語集会

イングリッシュタイムは、木曜日の朝の時間（8:15～8:30）に楽しみながら英語に触れる活動として、チャンツ・アクティビティ・歌・書く活動（文字に触れる）などを取り入れた。キーワードゲームやカードゲーム、文字に触れる活動、大型絵本やCD・DVDの音声や映像を活用し、楽しく活動することができた。

英語集会は、朝の時間（8:15～8:30）を使い、ゲーム形式で楽しむことによって異学年間の子どものコミュニケーションをとることを主なねらいとしている。ALTや国際理解指導員にも参加してもらい、ハロウィンやクリスマス、福笑いなどの行事にちなんだ内容で年3回実施し楽しく活動した。



英語集会

### ③ 異文化交流の推進

本校はアメリカ海軍佐世保基地や基地関係者の居住区、光海中学校に隣接しており徒歩で行き来できる恵まれた立地環境にある。その環境を生かし、佐世保エレメンタリースクールとの交流やイングリッシュデーなどを通して、外国の方々とのふれあいを積極的に取り入れ、子どもたちが英語を通じたコミュニケーションを体験できる機会を多くした。



エレメンタリースクールとの交流

## 3 成果と課題

- 1月に行った学校評価では「特色ある教育活動に満足している」という項目が3.7ポイントとなった。（前年度比プラス0.1）これは学校だより等を通して広報するとともに児童の特色ある活動に対する満足感が保護者や地域にも伝わっていると考え。特に「小中一貫型教育の展開」についての項目が3.6ポイントとなった。（前年度比プラス0.2）これは本校の特色である「小中一貫型教育」の取組が3年目にして浸透してきている結果と考える。
- 課題にこだわった指導、個に応じたきめ細かな指導を進めたことで子どもたち一人一人の学習意欲の向上と学習内容の理解・定着を図ることができた。今後は、1月に実施した学力テストの結果を詳細に分析し、今までの指導の成果と課題を明確にし、今年度中に課題の重点補充をするとともに、次年度の全国・県・市の学力テストを見据え、学力の定着を図り、次年度当初から課題にこだわった学習指導ができるようにする。
- 花や野菜の栽培活動や動物とのふれあい体験を通して、自然に親しむとともに、育てることの大変さや難しさ、生長の楽しみや収穫や動物との触れ合う喜びを実感することができた。
- 小中一貫型教育については中学校教師による乗り入れ授業も定着してきた。6年生も、徐々に中学校で過ごすよさ、中学生と触れ合うよさを感じることができてきたようだ。また、9学年と一緒に活動することによって先輩は後輩を思いやる気持ち、後輩が先輩を敬う気持ちが育ってきている。さらに小中一貫型教育の地域や保護者への理解を深めてもらうために、合同行事の公開や小中一貫だよりによる広報活動など充実させていかなければならない。
- 子どもたちが、「英語が好き」「英語の学習は楽しい」と実感できる、楽しく学ぶ英語教育の実践をさらに充実させる。評価については中学校の英語教師や外部テストにより、担任教師の評価する目は育ってきている。今後は誰が評価しても同じ結果となるような評価基準を明確にしていかなければならない。